

# II

## めざすべき愛知の姿

- 1 危機に強い愛知
- 2 すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知
- 3 イノベーションを創出する愛知
- 4 世界から選ばれる魅力的な愛知

## II めざすべき愛知の姿

2040年頃の社会経済の展望を踏まえ、次のとおり、将来の愛知の姿を描き、その実現をめざしていく。

### 1 危機に強い愛知

～感染症や自然災害等のリスクに負けない強靱な地域へ～

新型コロナウイルス感染症は、地球全体に拡大し、多くの人命を奪うとともに、人々の日常生活や経済活動に厳しい制限をもたらし、世界の経済、社会に深刻な影響を与えるなど、人々に感染症のリスクを強く認識させた。

今後、さらに、グローバル化が進展し、世界中で人の往来が活発化するのに伴い、感染症のリスクをコントロールする重要性が一層高まっていく。

また、南海トラフ地震を始めとした地震・津波災害や気候変動の影響に伴い大型化する台風や増加する豪雨により、頻発・激甚化する風水害などの自然災害は依然として脅威である。

そのため、いかなる危機に直面しても、被害を最小限に抑え、愛知が日本の成長エンジンとして、引き続き、我が国の発展を力強くリードしていくため、県民の生命・財産を守るとともに、速やかに社会経済活動を再開できる危機に強い地域づくりを実現していく。



## 2 すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知

～多様性を尊重し、豊かな時間を楽しみながら、全員が活躍する社会へ～

今後、AI、IoT、ロボットなどの技術革新の急速な進展により、社会経済の大きな変化が見込まれる。

ICT化の加速により、働き方や学び方も時間と場所の制約から解放され、より豊かでゆとりある環境での暮らしを選択することが可能となっていく。

そうした新技术を活用した多様なライフスタイルの広がりや、外国人県民の更なる増加、性の多様性への認識の広がりなどを背景に、社会で多様性を受け入れていく必要性が益々高まっていく。

人口減少や高齢化が進行する中でも、地域社会を支えていくためには、一人が複数の役割を担っていくことが期待される「一人複役社会」が到来すると想定される。

そのため、多様な価値観を認め合う寛容さを持ち、自分の可能性を高めて、次の時代を切り拓いていく人材を育成するとともに、すべての人が、豊かな時間を楽しみながら、望む形で役割を担うことができる社会をつくっていく。そして、「人生100年時代」において、お互いが支え合いながら、地域で安心して暮らし、生涯にわたって輝き、活躍できる社会を実現していく。



### 3 イノベーションを創出する愛知

～柔軟な働き方の中で、世界とつながり、新たな挑戦と未来を拓く創造が可能な社会へ～

今後、人材、財やサービス、資本、情報が国境を越えて行き交うグローバル化は様々な形で進展していく。国内需要が減っていく一方、アジアでは富裕層が急増し、巨大なマーケットが形成されていく。

そうした中、世界的な人材獲得競争の激化により、高度人材や必要な労働力が確保できなくなるおそれがある。

また、第4次産業革命の進展により、AI、IoT、ロボット等の先端技術が経済活動を始め、健康、医療、公共サービスなど幅広い分野において活用され、新たな製品やサービスを生み出し、産業構造や人々の働き方、ライフスタイルを大きく変えていくことが見込まれる。

そのため、モノづくりを始めとした産業集積や、充実した国際交流基盤などの強みを活かしながら、あらゆる産業で新技術の活用を進め、「産業首都あいち」として、国際的なイノベーションの創出拠点を形成していくとともに、未来を拓くイノベーションを生み出す人材を育成・確保していく。

また、アジアを中心とした世界市場を獲得していくため、新たな投資や取引機会の拡大を図るとともに、愛知から世界を舞台に挑戦し、活躍したいと考えるグローバル人材の育成に加え、海外の留学生、高度人材を呼び込んでいく。

さらに、新技術を活用しながら、生産性を向上させるとともに個々人の意欲や能力を十分に発揮できるよう、これまでの固定的な働き方から脱し、テレワークや兼業・副業など多様で柔軟な働き方ができる社会を構築していく。



## 4 世界から選ばれる魅力的な愛知

～県土をスマートに活用しながら、スーパー・メガリージョンのセンターを担い、首都圏の社会経済的な機能を代替しうる大都市圏へ～

リニア中央新幹線の全線開業により人口7千万人のスーパー・メガリージョンの形成が期待される中、世界のメガリージョンとの競争が激化していくものと見込まれる。スーパー・メガリージョン内での東京圏への更なる一極集中の進行は、感染症や自然災害に極めて脆弱な国土構造を助長するおそれがある。

一方、地域によっては、人口減少が進行し、空き地、空き家が増加するなど、都市がスポンジ化していくことが見込まれる。また、暮らしの基盤となる環境については、地球温暖化を始めとした地球規模の課題も益々深刻化するおそれがある。

そのため、愛知の優位性を更に高め、スーパー・メガリージョンのセンターとして、世界中からヒト・モノ・カネ・情報が集まり、首都圏の持つ社会経済的な機能を代替しうる中京大都市圏<sup>※</sup>の形成をめざしていく。その際には、各地域の拠点となっている個性ある都市が役割を分担しつつ、連携する多核連携型の圏域構造を維持・発展させていく。

あわせて、愛知ならではの強みを磨き、県民のシビックプライドを醸成しながら、「“Heart” of JAPAN～Technology & Tradition」をキーワードに愛知の魅力を世界に発信していく。また、「自然の叡智」をテーマに開催された愛知万博の理念を継承するジブリパークを始め、万博のレガシーも活かしながら、世界から選ばれる魅力的な愛知をつくるとともに、人口の維持・増加を図っていく。

さらに、大都市圏でありながら、豊かな自然環境が近接し、ゆとりある生活環境を形成している強みを維持しつつ、地域におけるICT基盤の充実や先端技術を活用したMaaS<sup>※</sup>など先進のモビリティサービスの導入などにより、持続可能で利便性の高いスマートな地域づくりを進めていく。

加えて、脱炭素社会を見据えた徹底した省エネルギー化や再生可能エネルギーの普及拡大とともに、人と自然の共生や循環型社会づくりの実現などにより、「環境首都あいち」をめざしていく。

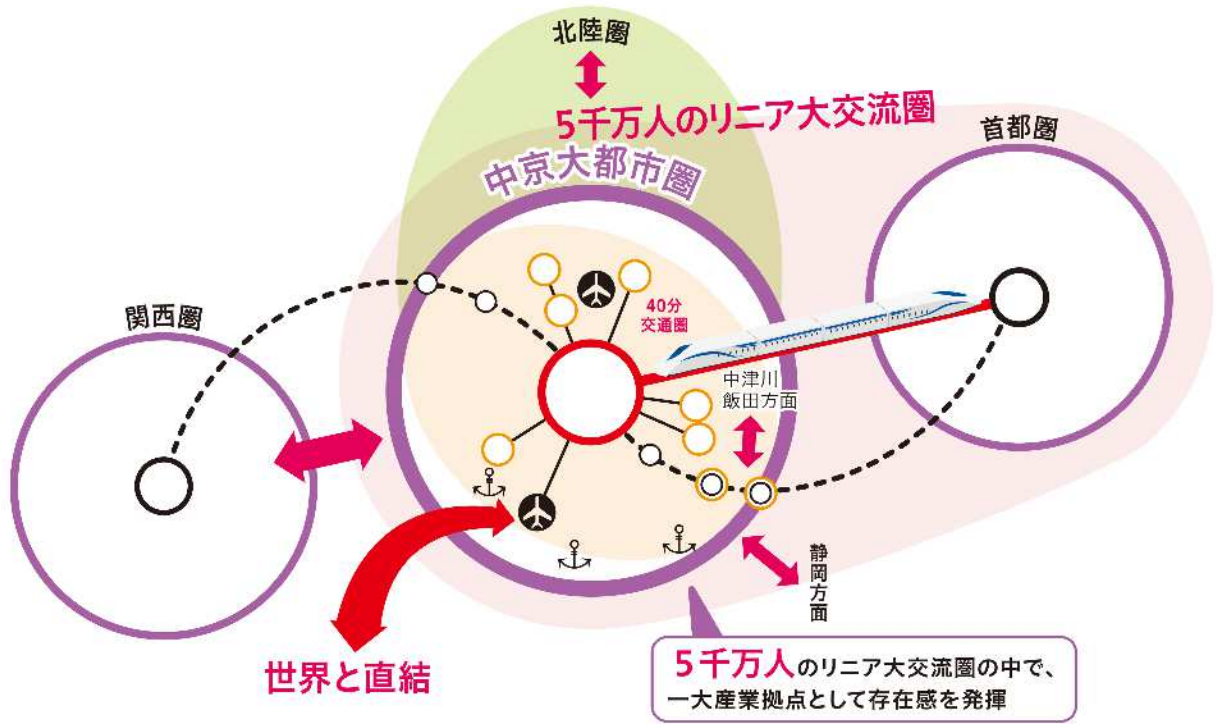
※ 中京大都市圏：名古屋を中心に社会的・経済的な結びつきが強く、一体性の強い産業集積を有するエリア(名古屋を中心とした概ね80～100キロ圏)を「中京大都市圏」と位置づけている。

※ MaaS：「Mobility as a Service」の略。出発地から目的地までの移動に対し、様々な移動手段・サービスを組み合わせて一つの移動サービスとして捉えるもの。

〈中京大都市圏の発展イメージ〉

— リニア中央新幹線    - - - 東海道新幹線  
 ○ 名古屋    ○ 中京大都市圏内の主要都市

リニア中央新幹線 東京・名古屋間 開業後



リニア中央新幹線 全線(東京・大阪間)開業後

